

CAMPUS KOSEI

キャンパス こうせい

vol.23



のへじ祇園祭り



第41回八戸短期大学「光華祭」



チアリーディング部 韓国遠征

Contents

■ 八戸大学

- ・八戸市鷗盟大学開催
- ・父母の会「父母と教職員の懇談会」開催
- ・同窓会「南東北支部」「岩手・秋田支部」発足

■ 八戸短期大学

- ・幼児保育学科 第1回就職相談会開催
- ・ライフデザイン学科「ボランティアデイ」開催
- ・ラブはちミュージアム～絆～に短大生が参加

■ 光星学院高等学校専攻科

- ・クリーンパートナー
- ・介護施設実習

■ 光星学院高等学校

- ・東北大学・慶応大学 出前講座
- ・韓国遠征 チアリーディング部・吹奏楽部
- ・三八上北地区高校演劇 合同発表会 県予選最優秀賞

■ 光星学院野辺地西高等学校

- ・のへじ祇園祭り
- ・総合学科東北大会
- ・今年も雪囲い



八戸市鷗盟大学開催される

八戸市 鷗盟大学 移動講座

平成23年9月9日に、八戸市鷗盟大学の移動講座が、八戸大学・八戸短期大学総合実習館で開催され、鷗盟大学の1年生約50名が来学した。同大学は、高齢者の生涯学習を推進する目的で八戸市が運営する団体である。学生は市内在住の満60歳以上の方々であり、八戸市総合福祉会館を拠点に、2年間の課程で生活福祉や園芸を学んでいる。この「移動講座」は、例年、八戸短期大学が受託し実施していたが、今回から総合研究所と学務課が窓口となり、講座を開催することになった。

当日は吉田稔学長補佐による歓迎のことばに続き、光星学院高等学校専攻科の永井英代教諭と松橋とし教諭による講義が行われた。テーマは「ボディメカニクス」「寝たままの着衣交換」および「ベッドから車いすへの移乗」である。833教室でビデオ学習を行った後、基礎成人看護実習室へ移動し、「寝たままの着衣交換」

の実習を行った。介護者は腰痛症等に陥らぬよう健康管理を徹底し、利用者に安全安楽に技術が提供できる心がまえが必要である。実習では介護者と利用者（左片麻痺）に分かれ、寝間着の交換方法、ベッドから車いすへの移乗を体験し、介護技術のコツを身につけた。

昼食後、体育館に移動し、三島隆章准教授の指導により、毎日をいきいきと過ごすために生活の中に取り入れたい様々な健康体操を体験した。体を動かしながらじゃんけんをしたり、ボールを使ったゲームなど次から次に紹介される健康体操に、参加者は真剣にとりくんでいたが、反射神経を駆使するため、思うようにできない動きもあり、体育館のそこかしこで笑い声が起こっていた。



閉講式では参加者を代表して鷗盟大学の学生代表がお礼の言葉を述べ、吉田学長補佐が講評を行った。また、参加者には新郷村で行う健康調査アンケート案の回答モニターのご協力をいただいた。天候に恵まれ、学生食堂を利用したり、広報用のボールペンをお土産に差しあげたりと、各部署との連携により、好評のうちに終えることができた。



同窓会 南東北支部 岩手・秋田支部 発足

八戸大学同窓会「南東北支部」「岩手・秋田支部」が発足した。支部設置は以前より要望があり、昨年同窓会25周年を迎えたことを機に設置する運びとなった。

「南東北支部」は10月1日、「岩手・秋田支部」は8日にそれぞれ発足式・記念交流会が開催され、あわせて約50名の同窓生が参加した。発足式では、支部規約が承認され、南東北支部長には今野幸輝さん（6回生）が、岩手・秋田支部長には松田雅道さん（1回生）が就任した。記念交流会では、同郷同士も多く学生時代の思い出話などで盛りあがった。



お知らせ 「Facebook」に八戸大学同窓会のページを開設しました。同窓会に関する情報提供のほか、同窓生の皆様の交流の場としても活用していきたいと思っております。

経営ビジネスセミナー開催される

10月7日・14日の2回にわたり、総合研究所市内オフィスを会場に「経営ビジネスセミナー」を開催した。本セミナーは経営革新・業務改善や新規事業の展開、人材育成などに取り組もうとする経営者・管理職等を対象に、(財)八戸地域高度技術振興センターと例年共催しているもので、今年度はのべ40名が参加した。

1回目のセミナーでは、八戸大学・八戸短期大学非常勤講師 根城隆幸 先生(元八戸商業高校校長)が「人材育成とビジネス教育」をテーマに講演を行なった。根城先生は、高校での教員経験を基に学校経営を例に出しながら、共通目標を持つことの重要性や社員一人ひとりと向き

合いコミュニケーションを行なうことの重要性を述べた。

2回目のセミナーでは、総合研究所客員研究員 藤代典子 氏(株式会社ノースブレッジウエルネス代表取締役)が「あなたの会社の『生涯ファン』をつくろう!」をテーマに、企業文化やマーケティング・接客について講演を行なった。有名企業を例に出し、企業文化と製品は運動しており矛盾していないことや、ブランド価値を高めるのはその企業や商品の物語性であると述べた。最

後に(財)八戸地域高度技術振興センターの阿部孝悦専務理事が挨拶しセミナーは終了した。



「新農業ビジネスI」公開講義

平成23年9月16日に「新農業ビジネスI」が開講した。ビジネス学部経営コー



スに新設された「農業経営プログラム」の講義で、初回は一般公開され学生をはじめ地域住民の方など約80名が聴講した。

この講義は、八戸大学客員教授 鈴木 誠 氏(株式会社ナチュラルアート代表取締役社長)が担当され、ビジネスという視点から農業を概観し、実際の農業経営に必要な経営戦略・マーケティング、流通・物流、マネジメントなどの知識を広くカバーした実践的な内容となっている。

この日の講義で鈴木先生は「世

界では農業に対して国をあげて取り組み、今まさに成長を続けている。衰退傾向にある日本の農業を、ビジネスとして成長させるためには売る努力も必要になってくる」と熱弁をふるった。

また、新たな試みとして動画配信サービスを利用した講義のリアルタイム配信と、青森県営農大学校への双方向遠隔講義が試験的に行われた。

「新農業ビジネスI」は秋学期中15回にわたり行われ、農業についての正しい理解を深め、有益な基礎知識を得た将来の農業の担い手育成を目指し取り組んで行く。

第18回青森県高等教育機関懇談会 第12回青森県学校教育関係者合同懇談会

第18回青森県高等教育機関懇談会と第12回青森県学校教育関係者合同懇談会が、八戸大学を当番校に平成23年10月3日に開催された。

この懇談会は、県内の高等教育機関や学校関係者が教育・学術に関する情報交換を通じて、各機関や地域の活性化に寄与することを目的に開催しているもので、当日は県内の21の機関から33名(本学関係者を含む)が出席した。

3月の東日本大震災への対応やキャリ

ア支援、コンソーシアムのあり方など各機関から提出されたテーマを基に情報交換が行われた。

特に、PTA関係者や高校関係者などを交えた「学校教育関係者合同懇談会」では、小中高校での携帯電話に関する諸問題や入学前教育などの高大連携、低学年層のディベート教育について、活発な議論が展開された。



スポーツリーダー養成講習会開催

10月22日・23日の2日間にわたり、総合研究所市内オフィスを会場に八戸大学



人間健康学部「スポーツリーダー養成講習会」が開催された。人間健康学部教員

5名が講師を務め、人間健康学部生6名を含む17名の幅広い年代の方が受講した。

本講座は自宅学習21時間と集合講習14時間の合計35時間のカリキュラムで、指導者の役割、スポーツ指導者に必要な医学的知識、スポーツの概念と歴史、トレーニングの進め方、指導計画と安全管理、スポーツと栄養、地域におけ

るスポーツ振興といったスポーツリーダーに必要な知識全般を学んだ。皆、それぞれの地域におけるスポーツ振興やスポーツ指導者を目指して熱心に講義を受けた。この資格は、地域スポーツ団体やグループリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営に携わる方のための、(公財)日本体育協会の認定資格である。

認定された方々は、今後各地域でスポーツ指導や振興に携わる“スポーツリーダー”としての活躍が期待される。

平成23年度 父母と教職員の懇談会開催

平成23年度の八戸大学父母の会「父母と教職員の懇談会」が、10月29日に八戸大学会館において開催され、約40名の父母が参加した。

父母の会役員を代表して家口和夫監事より、父母の会の活動内容や活動方針等について説明がなされた。続いて丹羽八戸大学副学長が挨拶し、八戸大学を取り巻く状況や重点的に取り組んでいる課題等について説明がなされた。

就職セミナーでは、株式会社文化放送キャリアパートナーズの岡田航三取締役(学校・学生支援事業担当)が「保護者へ伝えたい就職情報～子どもの進路とどう向き合うか～」と題して講演し、父母の方々は真剣に聞き入っていた。

学部説明会では、各学部長と教務・学生・就職支援委員会より、学部の現状や教育の取り組み・学生生活・就職活動等について説明がなされた。

個人面談では、カレッジアドバイザーが春学期末までの成績や部活動の状況・ゼミでの様子を父母に説明し、父母からの様々な質問・相談に応じた。面談した父母は、直接教職員から聞くことが出来て満足した様子であった。

懇談会は大学の状況を知り、また父母と教員が面談を行う1年に1度の機会なので、今後も多くの父母の方々に参加していただけるようにしていきたい。

「八戸大学」OB&OG訪問 part23



東北ペプシコーラ販売株式会社
八戸支店 ルートセールス担当
主事 成田隆輔さん
(20回生)

プロフィール

光星学院高校卒、八戸大学20回生。10歳からアイスホッケーを始め、大学卒業後も八戸市内の実業団リーグ、吉田産業でプレーを続ける。普段は飲料メーカーで新規開発の営業を担当。

Q：学生時代の思い出を聞かせてください

A：勉強やアルバイトもやりましたが、

ほとんどアイスホッケー中心の学生生活でした。10歳から始めていたアイスホッケーですが、大学ともなるとレベルも上がりますし、多くの選手とも出会えました。入学したての頃は、先輩からプレーのこと、大学での履修の仕方からレポートの書き方など何から何まで教えてもらいました。私が3年生の時には目標にしていたインカレにも出場することができました。そして4年生の時には主将として、リーダーシップを養い、仲間を支えられた事もあり、再びインカレに出場しベスト16の成績を残す事ができました。ホッケーを通じて出会えた大切な友人、尊敬できる先輩・先生は自分にとって、一番の財産です。

Q：仕事をしていて気をつけていることはなんですか？

A：出来る限り人と接し、共通点を見つけて話をするようにしています。共通点があれば、話がもりあがりますね。お客

様とは挨拶だけではなく一歩踏み込んだ話をさせてもらっています。この歳になり、やっと親や先生から言われてきたことの意味が分かってきました。素直に聞いていれば良かったと後悔もしています。だから今は先輩方の話を参考に、同僚や後輩にはプレッシャーを掛けてもらいながら、自分に活かせるヒントを見つけて行きながら楽しんでいます。

Q：最後に在学生へメッセージをどうぞ

A：たくさん遊びたくさん勉強してください！時間があればアルバイトもしてください！そして多くの人に出会う事で、自分のなりたい理想が見えてくると思います。そういう人が社会では楽しみが多かったり、幸せでいる事が多いです！好きな事が出来ている人が仕事を楽しんでます！後悔の無いキャンパスライフを全力で楽しんでください！週一回程度ですが、光星学院高校と八戸大学の売店も回っていますので見かけたら声をかけてください。

職業講話 ～職業への理解～

例年、1～3年生対象に「働く」ことに対する心構えを持たせるために、実際に仕事で人事に携わっている企業人から『企業が求める人材』について聞くことにより、仕事に対する意識の向上を図り、

また、知っているつもりで本当は知らない「仕事」について様々な業界で働く職業人を迎え、本音で語ってもらい知識や意欲を養ってもらうために実施しているものである。

今回は、従来の全体講話だけではなく、新たに人事担当者とのトークサロンの時間を設けて二部からなる内容構成に変更した。

第1部は、ハッピードラッグ株式会社丸大サクラ中薬局学術部長三上将氏、若手社員の上村良美氏による講話、「職業への理解～生きがいのある仕事をするためには～」として体験談を基に業界・業種・業態など細かい部分から話していただいた。

第2部では、各業界（公務員・ドラッグ業・金融業・IT業・食品製造業）企業から人事担当者を招いて、それぞれのブロックに別れトークサロン形式で交流会が実施された。

業界のブロックごとに分かれ参加した学生たちは、様々な質問を投げかけ、答えてくれる人事担当者の話に真剣な表情で耳を傾けていた。



就職内定者報告会

9月29日に内定を勝ち取った学生及び採用した企業の人事担当者を招き、1年生から3年生対象の就職ガイダンスで「内定者報告会」を行った。この「内定者報告会」は、4年生の就職活動の経験を、活動開始を間近に控えた3年生とこれからの情報収集に備える1・2年生に対して発表し、自己のモチベーションを高めてもらうため毎年実施しているイベントの一つである。

今年度は、活動前半の3月初旬に未曾有の大震災に見舞われ全国的に就職活動の動向が注目されている。そんな中で見事「青森県警察本部」に内定したビジネス学部の北上優也さん、「青い森信用金庫」に内定した同学部の鷹架俊基さん、「青森トヨタ自動車株式会社」に内定した同学部の山美優貴さん、「株式会社セントラルパートナーズ」に内定した齋藤将さんら4名を内定獲得学生としてゲストに招き、それぞれの就職活動の内容、他大学学生の状況、また内定した企業の魅力などについて語ってもらった。発表の中、北上優也さんからは、日常の中でいろんなことにチャレンジし自分自身を



高めてほしい、「自己分析」や「業界研究」をしっかりと行うことが大切。それには各学年対象の就職ガイダンス、就職合宿や合同企業研究会に積極的に参加することが大事だと後輩にアドバイスをした。

OBからのゲストでは、平成18年度卒業の奥谷綾さん、平成22年度卒業の古戸卓さんの2名を招いて、社会人として必要な心構えなど実際の身近な声を聞くこ

とができた。

また、採用企業からお招きした担当者からは、「求める人材」、「採用の理由、そして期待すること」など話して頂いた。

次年度生から活動時期の変化に伴い、今以上に厳しさを増すであろう様相の中、先輩から後輩に送った熱いエールの「内定者報告会」であった。

いわての学び希望基金に義捐金を寄贈

八戸短期大学看護学科の2年生が中心となって活動しているボランティアグループ「BORABORA」は、美保野キャンパス内の学生や教職員を対象に東日本



大震災被災者への募金活動を行い、総額5万円を「いわての学び希望基金」に寄贈した。

学生13名と教職員が参加した贈呈式は、平成23年7月19日(火)岩手県北広域振興局で行われ、学生を代表して岩本真季さんが「学業を通じて学ぶことのありがたみを感じている。子どもたちの将来に繋げてもらえればうれしい」と話し、寄付申込書を県北広域振興局の松岡 博局長に手渡した。贈呈を受けた松岡局長は、「子どもたちが夢に向かって成長できるよう役立てたい」と学生たちの活動に謝意を表した。

平成23年8月24日付で、岩手県知事より感謝の手紙をいただいた。その手紙には、「東日本大震災津波で親を失った子どもたちのために有効適切に活用させていただき所存です。「がんばろう！岩手」を宣言し、皆様からいただいた励ましを糧に、県民みんなで力をあわせ、希望に向かって復興に取り組んでまいります」と記されていた。

BORABORAの学生たちは、今回の震災に関連した募金活動の他、学内において積極的に節電の啓蒙活動を行っている。また、学生祭「光華祭」でも募金活動を行った。

幼児保育学科

第1回就職相談会を開催

平成23年7月26日(火)八戸大学会館において、幼児保育学科2年生を対象とした「就職相談会」が開催された。この相談会は、学生にそれぞれの施設の特徴をよく理解し視野を広げ、今後の就職活動に繋げてほしいと企画された。

この日は、青森県南の幼稚園、保育園、障がい支援施設など6施設に参加していただき、担当者による「仕事内容」、「就職するにあたっての心構え」、「求められる資質」等についての説明がなされた。「求められる資質」については、保育という仕事に誇りと情熱をかたむけられる人、社会人としてのマナーと行動力のあ

る人、コミュニケーション能力のある人、明るく笑顔を絶やさず少しの苦難を乗り越えられる人、社会福祉に熱意を持ち、誠実かつ向上心のある人等の内容であった。学生たちは、メモを取りながら熱心に耳を傾けていた。

就職相談会は、今年度初めての試みであり2年生の反応は「各施設の特徴や、どのような人材を採用したいのか詳しく知ることができた」、「自分なりにどういう園に勤めたいという希望を持っていたが、今日の説明で初めて聞く園の内容に興味を持ち、ぜひボランティアに行ってみて詳しいことを知りたい」、「普段聞くこと

ができないことを聞け、また分かりやすく教えてもらい、何が大切であるかを知ることができた」と話していた。

今回の相談会が、今年度の就職率向上に結びつくことを願うとともに、これからの就職活動に有効活用してもらいたい。



一人一人の力を活かして

ライフデザイン学科では、毎年10月の第1水曜日を「ボランタリデイ」と定め、学科全員でボランティア活動に取り組んでいる。

今年度は、震災を受け6月に2年生が岩手県野田村を慰問したのに続き、1年

生が野田村を再訪、2年生は八戸ポータルミュージアム「はっち」を利用した活動を行った。

野田村の特別養護老人ホームことぶき荘では、レクリエーションの講義内容を活かし、学生の司会による体操やゲームなど盛りだくさんのメニューで大変喜ばれた。帰りには「必ずまた来てね」とお年寄りに堅く手を握られ、学生も感激していた。野田村保育所では、園庭で体を使ってゲームや鬼ごっこで遊び、最後には学生によるアンパンマンとバイキンマンがバスに乗って現れ、園児たちは大興奮だった。午後からは、久慈市

立久慈湊小学校を訪問し、1・2年生には読み聞かせや手遊び、3・4年生とはレクリエーションで交流をした。

一方、三日町の「はっち」では、午前中は館内の「こどもはっち」でハロウィンパーティーの装飾準備を手伝い、午後にはホームヘルパー実習でお世話になっている瑞光園の利用者様を招いて、「はっち」内をご案内した。ティータイムには、調理実習を履修している学生が作ったマドレーヌと牛乳ゼリーを召し上がったいただき、和やかに歓談した。

一人ひとりが自分に出来ることを活かし、進んで活動することで、喜んでいただけると実感したボランタリデイだった。



久慈湊小学校へサッカーボール寄贈

さる10月5日、八戸短期大学ライフデザイン科の学生26名と、光星学院高校サッカー部員7名が3月の大震災で学区の一部が津波の被害に遭った。岩手県久慈市の久慈湊小学校（中居澄江校長、児童210名）を訪問し、サッカーボール11個を寄贈した。寄贈式ではサッカー部主将の東海林翼君（3年）が「地震への不安はあると思いますが、毎日笑顔で勉強や遊びを頑張ってください。」とあいさつを行なった。その後、同校の5、6年生72人と短大生・高校生が混成チームでサッカーを行い、楽しいひとときを過ごした。

サッカーボールを元気いっぱい笑顔

いっぱい追いかける児童たちの姿を見て、ボールひとつで皆が笑顔になれるサッカーというスポーツの素晴らしさを、あらためて確認することができた。震災の影響がある中でもそれを感じさせず、前向きさや笑顔を失わない子どもたちの姿に、短大生や高校生も大いに感じるどころがあったのではないのでしょうか。子どもたちにはこれからも、大切な友人たちと大切な時間を過ごしてもらいたいと思います。皆で

一緒にボールを追いかけて、かけがえのない思い出を積み重ねてもらえれば幸いです。



平成23年度 八戸短期大学父母の会開催

9月17日(土)に平成23年度父母の会総会・懇談会が開催された。これまで市内



のホテルで開催していたが、昨年度から学内を会場に変え、各学科の特色を活かした形で「学科別全体会」と「個人面談」を開催している。総会では、会員となる69名の保護者に参加いただき、議案が承認された。

学科別全体会では、学科の取り組み状況等の説明や各委員会（教務委員会、学生委員会、就職支援委員会）の取り組み状況

等の報告が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。

個人面談では、ゼミナール担当者の教員が前期までの成績や学生生活の状況、ゼミ活動の様子などを保護者に詳細に説明。普段知ることができない短期大学での様子を知った保護者は、満足した様子であり、有意義な時間となったようである。

父母の会事務局では、年1回の主催となるため、もっと多くの保護者が参加していただけるよう、内容を検討し、充実していきたいとしている。

ラブはちミュージアム～絆～に大学・短大生が参加

自分達のまちを知り、まちを愛すること、また人やまちとの絆を感じるきっかけとなるように、9月24日、25日の2日間、八戸青年会議所主催による「ラブはちミュージアム～絆～」が八戸ポータルミュージアム“はっち”で開催された。

当日は歌によるパフォーマンスや講演会、パネルディスカッションなどが行われ、八戸大学・八戸短期大学の学生も参加した。

「八戸（の若者たち）は、東日本大震災とどう向き合ってきたか」と題したパネルディスカッションでは、田中哲ビジネス学部教授をコーディネーターに、八

戸大・八短大、八工大、八高専の学生が登壇、八戸人間健康学部3年の国分夏子さんと、八短大ライフデザイン学科2年の高橋美沙樹さん、1年の岩谷憲汰さんが震災ボランティアの活動を報告した。

エンディングセレモニーでは、短大幼児保育学科1年の大橋紀美さん、小泉利沙さん、竹ノ子夢叶さんと八高専の学生が行動宣言を読みあげた後、短大幼児保育学科学生が参加した「上を向いて歩こう」の映像にあわせて参加者全員で合唱し、「明るい豊かなまちを

目指す想いを参加者と共有し、絆をより大きなものにし、まちづくりに活かしていくこと」を誓った。



光華祭

平成23年10月29日(土)と10月30日(日)の2日間にわたり、第41回八戸短期大学光華祭が盛大に開催された。今年度は、「Walk together ～八短から希望の光華を～」をテーマに掲げ、学生祭実行委員会を中心に約2ヶ月間にわたり準備をしてきた。

光華祭の企画は、学科企画とゼミナール・サークル企画に分類される。学科企画では、各学科の特色を活かした企画が揃った。幼児保育学科では、てづくり！子ども部屋、ピアノコンサート、附属幼稚園作品展示などを企画。ライフデザイ

ン学科では、ニュースポーツ体験、デジカメ印刷工房、親子料理教室、八短キャンパスラジオなどを企画。看護学科では、肥満解消ダンス、妊婦体験、ヘルスチェック、アロマで手浴と血圧測定などの企画を揃えた。特に八短キャンパスラジオを運営したライフデザイン学科の学生達は、その様子を随時放送。短大と総合実習館で開催している光華祭を大いに盛り上げていた。ゼミナール・サークル企画では、ステージ企画と模擬店企画に分かれて実施した。ステージ企画では、アンパンマンショー、ウィンドアンサンブルコン

サート、ゼミナール発表を行い親子連れでも楽しめる企画を幾つも揃えた。模擬店企画では、焼きそば、たこ焼き、せんべい汁、豚汁、きゅうりの一本漬け、からあげ、お好み焼き、アイスクリームやジュースなどの多くの模擬店が揃い、学生たちが競って腕を振っていた。

今年度も来場してくださったお客様が笑顔で帰っていただけられるよう、学生たちは精一杯のおもてなしをし、満足のいく学生祭を終えることができた。



安全ラリー大会

自動車科の伝統行事である、第34回安全ラリー大会が9月20日(火)に行われた。

この大会は、『交通規則を守る運転により、安全運転に対するモラルの向上』を目的に毎年開催される。

1チーム3～4名が1台の車両に乗り、当日に渡される制限速度や距離、交差点が記入されたコマ地図を見ながらゴールを目指し、あらかじめ決められたタイムにいかに近いタイムでゴールできるかによって競われる。



大会当日はあいにくの雨だったが、予定通り全12チームがスタートした。

自分はナビゲーターとして参加したが、知らない道での地図の読み取りはチーム内で相談し、制限速度を意識しながらドライバーがスムーズに運転できるようにルートを指示するといった、やりがいと楽しさを感じる行事だった。

天候の悪い中、全チームが安全運転で無事にゴールできたのは何よりだった。

お昼は屋外でのバーベキューを予定していたが、雨のため自動車実習場内にて行い、他のチームのタイムや様子を聞くなど話題が尽きない昼食であった。

その後、表彰式では各区分賞と総合順位が発表され、私たちのチームは9位という結果だったが、それを来年への意欲として今年度

のラリー大会は終了した。

この大会を通じて、チームとしての仲間意識や、他チームとのライバル意識がより良い方向で働き、大会の目的以上の効果があるのではないかと感じられた。

今後は通学の際にも安全運転を心がけて欲しいと思う。

自動車科1年 亀田 宗誉



通学路をきれいに！清掃奉仕活動実施

専攻科自動車科の学生と教員約50名が10月13日(木)、美保野の専攻科校舎までの、日ごろ通学に利用する3ルートで清掃奉仕活動を行った。

環境美化に貢献し、まちをきれいにしようと、昨年はちのへクリーンパートナーへ登録し、今回が2回目の活動となる。



第1ルートは2年生全員で青森トヨペット(株)八戸東店付近から、国道45号線の歩道両側を通り専攻科まで、第2ルートは1年生B班で第一養護学校付近から美保野グリーン牧場前を通り専攻科までを、そして第3ルートは1年生A班が八戸水産高校グランド付近から専攻科までの清掃活動だった。

学生と教員はゴミ袋を手に、道路脇で空き缶・ペットボトルや紙くず・タバコの吸い殻を拾い集め、普段自動車やス

クールバスで通学している際には気づかなかったゴミの多さにびっくりするとともに、「街がきれいになっていくのは気持ちが良い」と充実感たっぷりの清掃活動であった。

各コースおよそ4～5kmの距離、約3時間の清掃奉仕活動で拾い集めたゴミの量は、燃やせるゴミ40kg、燃やせないゴミ50kgもあり、特に空き缶やペットボトルのポイ捨てがいかに多いかを実感した一日だった。



介護実習(I)で学んだこと

利用者には多様な生き方や性格・生活習慣があるが、特に認知症高齢者では見当識障害、記憶障害、実行機能障害または発達障害や身体的な障害により、自分のニーズを表現できない利用者が多く、その人に合わせたコミュニケーション手段をとることが重要であった。

何を支援するかについて、いろいろな言葉がけや行動の中から見極めなければ



ならないが、私はうまく理解することができなかった。

そんなとき指導者の方から「利用者目線を合わせて笑顔していると笑顔が返ってくるよ」とアドバイスをいただき、実践してみたところ、その通り笑顔が返してもらえたのでよかったと思った。

今までは普通に会話をしたり、聞いたりと書いたりするコミュニケーションしか経験がなかっただけに、利用者にとってなにが必要かも理解できずに戸惑ってばかりだったが、笑顔で利用者へ寄り添ってあげるだけでも安心感を与えることができたと感じた。

今回の実習で、自分なりに利用者を理解しようと努力し、わからないことは指導者の方に聞きながら関わりを実践してみ



たことで、反応を得ることができるようになった。

実習中に助言いただいた「人に興味や関心を向けることにより、自然に言葉が出てくるものです」ということを、実践しながら少しずつ理解できたように思う。

自分に足りなかった点は、利用者の話を傾聴して思いを知り、個別性を理解する姿勢だったので、今後は相手の視点に立った見方をできるように研鑽し、学習に力を入れていきたい。

介護福祉科1年 苫米地 由貴

パークゴルフ交流会

10月3日(月)学生会主催による、介護福祉科1・2年64名でのパークゴルフ交流会が、八戸美保野パークゴルフクラブで開催された。

この交流会を通してパークゴルフを体験し、老人施設等の利用者へ楽しさやルールを説明することができる、自然の中で安全に配慮しながら楽しんでプレーできる、チーム内でコミュニケーション

を図り実習等の情報交換ができるなどを目的として行われた。

プレー開始時はあいにくの雨だったが、次第に雨は止み、青空が広がったコース上では笑顔や歓声が溢れ、自然に癒されながら心地良い汗を流した。

プレー終了後の昼食会ではやはり施設実習での話題が主となり、コミュニケーションの取り方が大変だったとの声が多

く聞かれた。

また、施設実習における目標の立て方、記録の書き方、就職についてなどの意見交換が盛んに行われ、介護を志す者たちが相互に刺激を受ける良い機会となった。

このような交流会がまた開催されることを望んだ一日であった。

介護福祉科2年 夏堀 雪花



光星祭

輝け君の「青春」 煌めけ君の「希望」

今年の光星祭は、平成23年10月15日、16日の2日間の日程で、『輝け君の「青春」煌めけ君の「希望」』をテーマに開催された。光星祭初期の頃は、リヤカーで行商に行くような行事だったと聞いているが、現在は、たくさんの方々が学校を訪れる行事になっている。他の高校と文化祭の日程が重なっている中、この2日間で約三千人の来場者を数え、盛況のうちを終了することができた。

光星祭の内容は、各科・各部の趣向を凝らした展示、PTAによるバザー、朝市のみなさんと各部による模擬店、体育館と中庭でのイベントである。イベントのゲストとして、北海道大学の「よさこい」チーム・縁が来てくれた。飛び散る汗と若々しさ、激しい踊りとともに、会場を大いに盛り上げ、最終的に本校の生徒もはじめて「よさこい」に実際に触れ、踊りを体験し、充実した素晴らしいイベントであったと感じている。

新校舎となった第39回光星祭から、イベントとして中庭で中夜祭を行っているが、この中夜祭が一つの伝統となりつつある。今年の中夜祭は、歌と郷土芸能、上半期で活躍した部活動を表彰する光星アワード2011を開催した。ある卒業生から、この中夜祭が一番印象に残っているとの話を聞き、企画に携わった者として嬉しく感じている。

最後に、「光星祭」に携わっていただいた全ての方々に感謝すると同時に、来年は、さらに内容を充実させ、誰もが心に残るものにしたと考えている。

教務部長 高橋 亨



渡辺孝之氏による教育講演会

去る9月9日、駒形どぜう代表取締役社長渡辺孝之氏をお迎えして、教育講演会が開催されました。渡辺氏は、本校の事業所後援会の会長でいらっしゃいます。駒形どぜうには長年にわたり、本校卒業生が毎年のように就職しています。講演では、野田首相による「どじょう内閣」のおかげで、創業210年の店に連日行列ができているとのお話から始まり、以前、テレビ東京の「和風総本家」という番組で放送された特色ある駒形どぜうの仕事をDVDで紹介してくださいました。社会に出てからも勉強が大切であり、知識を増やし、友達を作ることが必要である

こと、ルールを守って徳を積むこと、病気やけがをしないで体力を付けて身体を作ることが必要であるということをお話くださいました。また、社会人になったら、①目的意識を持つこと②経済的に独立すること（将来に備えて貯蓄をすること）③会社で新しい友達を作ることが必要だとおっしゃってられました。さらに、求人する側として①挨拶しない生徒②服装が乱れている生徒③授業中寝ている生徒は採用しないということでした。挨拶ができて、服装ができてい人は会社に大事にされるとのことであり、仕事を一生懸命やるのが大事で、いい加減

にやって失敗するのは腹が立つことであるとおっしゃってられました。「学校を出て良かったと思えるように頑張ってください」と締めくくられました。生徒たちに、基本で大切なことを改めて教えてくださいました、大変有り難いご講演でした。

教頭 加藤 康子



慶應義塾大学交流会&東北大学出前講座

去る8月5日、慶應義塾大学レスリング部の学生13名、本校卒業生1名と特進クラスとの交流会が本校図書室で行われました。これは、慶應義塾大学レスリング部が本校に合宿をしたのを機に行なわれ、大学生と生徒がグループに分かれて終始和やかに進みました。また、大学でのキャンパスライフや自分が受験した時のことなどに生徒達が目を輝かせて聞いていましたが、特に、高校生から就職に関する質問がでると、既に三菱東京UFJ銀行、三菱商事、三井物産など一部上場企業に内定をしている話を聞くと、『さすが陸の王者慶應！』の声が上がり、大学進学指導に大変有意義なものになり

ました。また、9月5日には、本校オープンスペースにて東北大学大学院農学研究科の片山知史教授をお招きして、『海を守り、海から恵みを得るとはどういうことか』をテーマにして講演会が行われました。片山教授は、本県の小川原湖の研究等もなされており、今の日本の海の現状から始まり、食用としない海産物から得られる恵みを多方面から考え、その恵みももらい続ける時のルールやそれに関係している水生生物の特徴を懇切丁寧に面白く説明していただきました。生徒

からは3.11の地震による海への影響や魚の耳石で年齢を調べその応用について等、多数の幅広い質問も出ました。最後に片山教授からは「いつも学ぶこの大切さを忘れないように」との激励の言葉を頂き生徒達は感激しておりました。両大学には本校から進学者を出しており、この機会を利用して今後更に多くの生徒が慶應義塾大学・東北大学に本校から進学することを望むものである。

普通科科長 門馬 修



普通救命講習を学んで

今年度第2回目の母親研修会は、「普通救命講習・AED」です。9月28日(水)オープンスペースを会場に、14名の参加者が、普通救命講習・AEDを学びました。講師は、東消防署の消防士長 佐々木仁氏と、防災士の久保邦人氏です。三時間の講習で、盛り沢山の内容でしたが、参加した皆さんは、真剣な面持ちで学んでいました。参加した方は、「本来はA

EDを使用することがない方がいいわけですが、いざという時、救急車が駆けつけるまでの間、すべき事を知っていれば、かなり違うと思います。慌てずこの講習で学んだことを生かして、人助けができればいいと思います。」と感想を述べていました。三角巾を使って行う手当法や、毛布を使った即席担架等も、興味深い様子でし



た。最後に講習修了証が一人一人に手渡されました。

総務部長 赤間 俊勝

“強い思い” と “若い力の結束”

9月17日(土)、18日(日)、八戸市公民館で行われた第51回三八上北地区高校演劇合同発表会兼県大会予選会に出場し最優秀賞を獲得し、青森県高校演劇合同発表会兼東北大会予選会への切符を5年ぶりに手にしました。

演目は「えんど。」脚本を創作したのは、吉田誉君（3年C組 鮫中出身）と村下直光君（2年A組 新郷中出身）。あらすじは、不慮の事故で命を落としてしまった主人公ジン。しかし、人生でやり残したことがあり成仏できずにいました。やり残したことは一体何なのか思い出せずにもがき苦しむジンでしたが、友人

の助けもあり、好きな女の子にノートを借り、返していないことを思い出します。そして、天国へ旅立ってゆくジン…。

時には爆笑、時には涙と会場内は生徒たちの演技に酔いしれていました。

5年ぶりの県大会出場の原因力は、“強い思い”と“若い力の結束”。現在、演劇部は総勢34人で活動し、お互い切磋琢磨し練習に励んでいます。しかし2年前、部員はたったの1人、現在の部長吉田君のみでした。1人では、活動も困難で大会に参加することもできず、事実上の休部状態。それでも、吉田部長は諦めることなく八戸市内にある劇団で演劇を学び、

1年後、後輩達に指導しようと努力してきました。その思いが通じ、昨年11人が入部、そして今年22人の1年生を迎えました。ほとんどの部員は初心者、吉田部長の指導の元、毎日毎日、反復して基礎練習に取り組みました。その結果、大会前に急成長、特に1年生は見違えるほどの演技力を身につけました。また、日を追うごとに結束力も強まり、地区で戦えるだけの力を備えることができました。

部員一丸となって勝ち取った県大会。今後も、さらに飛躍できるよう取り組んでいきたいと思えます。

演劇部顧問 漆澤 謙治



日韓交流おまつり

吹奏楽部とチアリーディング部が参加

9月25日に韓国ソウル市にて「日韓交流おまつり」が開催された。このイベントは、日韓の交流を通じてお互いの文化や芸術に対する理解を深め、日韓両国の友好関係を深化することを目的として開催された。今年度は東日本大震災の被災地でもある八戸市から本県を代表して吹奏楽部の9名とチアリーディング部の12名が参加した。

吹奏楽部は交流お祭りのオープニングに出演し、地元韓国のユースのオーケストラ（小学生～高校生）と共演した。

韓国に到着し、非常にハードなスケジュールの中、全5曲を前日に一度だけ練習し、言葉も違う中、指揮者の様々な要求にも答え、当日の本番を迎えた。また、練習の合間には韓国の同年代の高校生とも身振り手振りですぐに打ち解け、情報交換をしている姿も見られた。

また、チアリーディング部は演技だけでなく韓国ではまだチアリーディング競技に馴染みがないということで、説明を交えながら発表を行った。演技を見た観客からは大きな歓声と拍手が上がり、大変喜ばれた。

韓国のミチュホル外国語高校の



生徒との交流会では手紙やプレゼントの交換や、お互いの校歌を披露し合い、大変貴重な時間を過ごすことが出来た。東北三大祭りの紹介もあり、ねぶたのハネトとして全員でゆかたを着て参加し、韓国に東北と青森の元気をアピールすることができた。

今回の韓国遠征で生徒達は多くのことを学ぶことができ大変良い経験をする事ができた。今後の部活動に活かしていきたいと思う。今回、このような機会をくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

吹奏楽部顧問 五十嵐敬彦
チアリーディング部顧問 岩館 千世



硬式野球部 秋季東北大会優勝

平成23年度秋季東北地区高校野球大会において3年ぶり3回目の優勝をすることができました。そして、来春の選抜甲子園の出場権をほぼ手中にすることができました。これも皆様方のご支援ご協力があったとのことだと心から感謝申し上げます。

新チームは夏の甲子園大会で決勝まで進出した影響で他校より約一か月スタートが遅れていました。また不祥事もあり大変苦しい状況でありました。学校、地域の皆様にご迷惑、ご心配をかけてしまいましたので、何とか名誉挽回したいと短期間ではありましたがチームを仕上げました。選手達には『マイナスからのスタート』だと言いつけさせ、もしかしたらスタンドから野次や罵声を浴びせられるかもしれないけど、とにかく頑張って何が何でも勝ってやるという強い気持ちをもって戦いに挑もうと練習に励みました。

マイナスからのスタートでしたが選手達の勝ちたい気持ち、そして引退した3年生のチームへのサポートが素晴らしく、チームは急速に力をつけ秋季青森県高校野球大会を優勝することができました。



2年 金沢 湧紀 君 (八戸市立市川中学校出身)

また続く東北大会では強豪校を次々と敗り優勝することができました。こんなに急速に力をつけた選手、チームは初めてであり高校生の無限大の力に本当に驚かされました。

「勝って兜の緒を締める」という諺が

ありますが、これからの日々を大切に生き、同じ過ちを二度と起こさないように厳しく練習に励み、三季連続の甲子園で全国制覇を目指したいと思っております。

硬式野球部 監督 仲井 宗基

第32回青森県高等学校総合文化祭

第32回青森県高等学校総合文化祭が、大会テーマ「Enjoy! Smile!! Be Happy!!! 一力の限りブンブン〜」のもと、10月28日(金)から30日(日)まで、八戸を中心に三八・上北地区、県内14会場で開催されました。



<p>KG 青森県高等学校総合文化祭 家元賞 若本 詩音 (3年S組) 優秀賞 高橋 美香 (1年C組) 準優秀賞 清川 美咲 (3年S組)</p>	<p>KG 青森県高等学校総合文化祭 囲碁将棋部門 男子Bクラス第3位 小山 翔太 (湊中出身)</p>	<p>KG 青森県高等学校総合文化祭 囲碁将棋部門 男子Aクラス第2位 東北高総文出場決定! 工藤 一輝 (田名部中出身)</p>	<p>KG 青森県高等学校総合文化祭 演劇部門 優秀賞受賞 作品名『えんど。』</p>	<p>KG 青森県高等学校総合文化祭 自然科学部門 優秀賞 来年度全国高総文出場決定!</p>	<p>KG 青森県高等学校総合文化祭 書道部門 最優秀賞 受賞 来年度全国高総文出場決定!</p>	<p>青森県高等学校総合文化祭 自然科学部門 優秀賞 書道部門 最優秀賞 演劇部門 優秀賞 囲碁将棋部門 Aクラス2位 Bクラス3位</p>	<p>来年度全国高総文出場決定! 青森県高等学校総合文化祭 自然科学部門 優秀賞 書道部門 最優秀賞 演劇部門 優秀賞 囲碁将棋部門 優秀賞</p>
--	--	---	---	---	---	--	--

豪華絢爛な山車、町を練り歩き

8月18日(木)のしめあげと呼ばれる大しめ縄奉納から始まり、21日(日)の山車合同運行までの4日間に渡り、「届けよう明日へつながる祇園の音」をスローガンに「2011のへじ祇園まつり」が開催された。生徒と教員が作成した「伊勢三郎、義経見参」と題した山車が、神楽とのへじ祇園囃子保存部の奏でる笛・太鼓・三味線による祇園囃子とともに野辺地の町内を練り歩き、観客から大きな拍手と声援を受けた。

祭り参加は、地域交流を目的として取り組んできたが、今年で12回目となり、

「若祇賞」を受賞した。今年は、甲子園予選県大会で硬式野球部が惜しくも準優勝だったが嬉しいニュースでもあり、「甲子園予選応援ありがとうございました」の看板を山車後方に掲げ、町内の方々の声援に感謝の気持ちを表した。

今年の祭りの開催にあたっては、3月11日の東北大地震の発生を受け、様々な理由から祭り開催を危ぶむ声も聞かれたが、祭りを開催することで元気を取り戻そうとの意図から祭り開催を決議、「巨大地震発生時対応マニュアル」を作成しての開催となった。幸い山車運行中には地

震もなく、最終日まで無事開催された。初日の運行にはここ6、7年参加していない。参加生徒の安全面の配慮から、本校が参加するのは最終日一日だけだが、来年は何とか駅前ロータリーに他の山車組とともに並んで、山車の出来栄を多くの人に見てもらいたいとの声も出ている。クリアしなければならない問題はあがるが、是非ともその思いを叶えたい。



P T A 研修旅行

10月23日(日)、時折雨の降る中、参加者25名は下北へ向けて出発。

最初の見学は、海上自衛隊大湊地方総監部「北洋館」。この建物は、大正5年に海軍大湊要港部の水交社(今でいう士官の社交場)として建てられたもので、外装は釜臥山から採石した石材が用いられた、当時としては珍しい洋風の建物である。今は、明治35年の旧海軍大湊水雷団開設から現在までの「北方の海上防衛」



をテーマとした貴重な資料約一千点を展示し、広く市民にも開放していると広報担当官から説明があった。

また、3・11の大震災時の派遣の様子を写した写真の特別展示も行われており、今更ながら半年前の思いが蘇ってくる思いであった。

続いて向かったのは、「下北ワイン」で有名になったワイナリーである。参加者の多くはここでの試飲を楽しみに研修旅行に参加されていたようで、さまざまな種類のワインをついでもらい、味を確かめて、気に入ったワインを購入していた。時間の都合でぶどう園が見学できなかったのは残念であった。

葉研温泉へ昼食をするため

に移動。柴崎会長の挨拶ののち会食、その後入浴や溪流散策など思い思いに時間を過ごし、帰路についた。

参加者からは、「来年はどこへ行くのか。」との質問があり、次回も楽しみにしている参加者の声が聞かれた。



On the pitch の強化と Off the pitch の改善

サッカー部は、昨年の新人県大会準優勝の悔しい思いから、オンザピッチ（グラウンドの中）の強化とオフザピッチ（グラウンドの以外）の改善に力を入れている。

・練習は常に高い意識で厳しく望み、一切の妥協を許さない。

・学校生活では、他の模範となり、学校を引っ張る存在になる。

この二つの取り組みの中から、辛抱・我慢を通して忍耐力の強化を図り、それを自信に変え、試合の中で発揮できるように努めてきた。

これまででは、力がありながらも発揮できず敗れることがあったが、今は精神的に逞しくなったことにより、常に安定した力を発揮できるチームに成長してきた。「一人ひとりが監督の目を持ち、選手同

士が指摘、指導し合う。」を合言葉に、生徒は選手としてだけでなく、人間的に大きく成長できた。Off the pitch の改善を徹底したことにより、相手チームのBad habit（悪い習慣）が見え、試合をする前から精神的優位に立ち、自信を持って試合に臨むことができるようになった。

また、自分たちのグラウンド内外の取り組みが、学校からそして地域から評価されるまでになり、選手間の決断力と協調性が増したと感じている。それに伴い、個人個人の行動力、実行力が向上し、あらゆる面で成長することができた。



残念ながら、優勝を手にすることはできなかったが、今後も On the pitch と Off the pitch を徹底継続し、悲願の全国大会出場を果たしたい。

サッカー部監督 三上 晃



1年間の主な戦績	
平成22年度県新人大会	準優勝
平成23年度高校総合体育大会	第3位
平成23年度県リーグ1部	準優勝
平成23年度全国高校サッカー選手権大会青森県大会	第3位
平成23年度県新人大会	準優勝

県高等学校総合文化祭参加を通して

10月29日(土)、「青森県高等学校総合文化祭」の八戸工業高等学校を会場として行われた「青少年赤十字部門」にボランティア部（部員二十五名）が参加した。青少年赤十字は、学校教育の中で、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、身の回りで実践的に活動を行い、いのちや健康を大切にし、奉仕と友好親善の精神を養う活動である。

今年度本校は、例年と同様に壁新聞出品と、上北地区の代表として、三年次生の坂本詩織さんが体験発表に出場した。

壁新聞には、各校が今年どのような活動を行ってきたか、様々な工夫を凝らして作品を仕上げる。今年の本校の作品は、前年と比べると簡素であったが、部員たちは他校の作品を鑑賞しながら、アイデアのヒントを得、来年に向けてより良い作品作りに意欲を見せていた。

体験発表においては、坂本さんは「東日本大震災に思う」と題し自分の考えを

伝えた。

震災後のボランティア部としての支援活動や、5月に姉の進学のために同行して訪れた宮城県内、その被災状況を目の当たりにした時の思い、そして9月10日(土)に野辺地町で行われた飲食業を営む齊藤秀喜さん（岩手県山田町）の被災体験の講演にも触れ、困難に立ち向かい復興に向け取り組む姿に感動したことなどを盛り込み、いのちについて考え、またこれからの部としてできることは何かを具体的に発表した。



今回の大会を通して、改めて部員一人ひとりが、日常生活において実践することができる、様々な奉仕について考える機会となった。誰かのために何かを行うことにおいて、私たちがおざなりな態度になってはいけない。そのことに気をつけながら、日々の活動を行いたいと改めて感じた大会となった。



東北地区高等学校総合学科研究大会

第7回の総合学科東北大会が、10月6日～7日の2日間、主会場の青森県立尾上総合高等学校と、弘前プラザホテルの2会場で開催された。

参加校37校、参加人数139名で、田子高校の郷土芸能のアトラクションを皮切りに、全国総合学科高等学校長協会理事長、及び青森県教育委員会委員長をお招きして、開会式が開催された。

その後、尾上総合高等学校の学校紹介があり、全体会では福島県立相馬東高等学校と山形県立北村山高等学校の2校の実績発表され、各分科会に分かれて、そ

れぞれのテーマのもと研究協議が行われた。

第1分科会は教育課程編成の諸問題、第2分科会では原則履修科目の指導、第3分科会では進路指導についての協議であり、第2分科会で「私学工業系総合学科の現実」と題して、本校から島田先生の説得力あるユーモアを交えた発表があり、第2分科会参加者を沸かせていた。

また、18時からは弘前プラザホテルへ会場を移して、情報交換会が盛大に開催され、1日目の幕を閉じた。



2日目は、各分科会の報告の後、初めて企業から校長として活躍された、山上隆男氏を招いて、「次代を担う総合学科へ～東北から先進的教育を発信しよう～」と題して、記念講演が行われ、大会の幕を閉じた。

関東支部同窓会総会・懇親会

10月15日(土)東京都綾瀬にある江戸一万来館において、平成23年度関東支部同窓会総会・懇親会を開催しました。



今回の総会は昨年へ続き2度目で、諸般の都合により開催が出来ない状況であったところ、新支部長の力添えにより会場等の準備が整い開催の運びとなりました。

総会には支部会会員8名、本部役員4名、学校職員からは齊藤校長と職員を代表して宍戸先生に出席していただき少人数ですが開催されました。総会では、杉山正七同窓会長の挨拶から始まり、事務局から会務報告が行われ無事終了した。引き続き懇親会が行われ関

東支部の若山正義支部長の挨拶から始まり、齊藤校長の挨拶、宍戸先生の乾杯の音頭で懇親会が始まり学生時代の思い出に会場が盛り上がり和やかな雰囲気です。今回は1期生(S50年度卒業生)からH22年度卒業生が集まり工業高校時代の校則や学校生活の話になると会場が盛り上がり、新卒者は大変驚いた顔をして話に聞き入り、宴が延長するほど盛り上がり楽しい支部会でありました。

結びに幹事の藤崎努君の一本締めで会を終了し、次回の支部会での再会を誓いあいました。

本校の晩秋の風物詩、実習棟の雪囲い作業が今年も行われた。例年は恒例行事として、10月下旬に全校一斉ボランティア活動として行われるが、今年は各系列ごとにこの作業を10月上旬から、各系列の実習の時間を使いおこなった。

今回の作業では、教師も生徒も男女を問わず、みんな慣れた手つきで作業を進めた。上級生ともなると、高く手の届かない位置への設置には、背の高い生徒がすぐ手を差し伸べて手伝い、新しい板の搬入はジャージに木屑が付くのも気にせず運ぶ生徒達には感心させられた。そんな中にも、古い板の裏からでてきた昆虫や爬虫類に驚き、大声を上げる生徒もいたが、和気藹々と作業を楽しみながらこなしていった。

本校のある野辺地町枇杷野地区は、県内でも有数の豪雪地帯として有名な地域である。そのため、落雪時の衝撃からガ

今年も雪囲い 全校生徒で実施

ラス窓を守るための防衛策が「雪囲い」である。実習棟の構造が雪国仕様としては庇が短い。毎年冬期間、実習棟では石油ストーブで暖を取っているため日中暖められた屋根の雪がずり落ちる、夕方からの寒さで凍結する、これを繰り返すため軒下で雪が窓側に巻き込んだり、落ちることなく芸術的に長く連なったりして、毎年落雪時には窓ガラスの破損の被害がでる。

約2時間程の作業で、「先生、ここどうすればいいのよ。」とか「ここ、長さがあわねえぞ」、「疲れたじゃあ。」など担当教師に頼りながらの作業であったが、満足

そうな笑顔を見せる生徒もちらほら。怪我をする生徒もなく、無事に冬を迎える準備を終えた。

今年も本格的な冬が、もうそこまで来ている。



八戸短期大学附属幼稚園



星の子祭&保護者バザー



星の子祭では、子どもたちの日頃の活動を保護者の皆様、地域の方々にご覧いただき、子どもたちの逞しい成長を共感していただきたいと願いながら、毎年、作品を展示して参りました。今年は特に「お友だちとの活動や、みんなで行った園外保育の体験などが作品に伸び伸びと表現されている」、「一つ一つの作品から子どもたちの『思い』を強く感じる」、「組を順番に観ていくことで、子どもたちの成長がとてもよくわかる」、「展示が工夫されていて楽しい」などの感想を多くの



皆様から頂戴しました。新企画「子どもたちの未成品を親子で完成させよう」では、楽しいひとときを過ごしていただくことが出来、嬉しく思います。各組の展示作品やテーマは次の通りでした。

つぼみ組(満3歳児)

大きな紙に大きくお絵描きをしたきれいな鳥。

つくし組(年少)

こんなお家や洋服も素敵かも、と思うもの。

すみれ組(年少)

ちょっと大きくなった僕と私が、お部屋の中でお友だちと遊んでいる。どんな僕、私がいるかな。

たんぼぼ組(年少)

大好きなもの、経験したことを描き、動物やお弁当を作る。

つき組(年中)

テーマは宇宙。星星や愉快的な宇宙人を想像して心の目で見て作製。



ほし組(年中)

素敵な靴をはいて、お魚や鳥に会える楽しいピクニックへ出発!

にじ組(年長)

「春・夏・秋・冬大好き!」季節の中で、ハイ、ポーズ。

ぞら組(年長)

テーマは「春夏秋冬」、季節の自然や出来事を、色々な角度から表現。

P T Aバザーも、保護者の皆様の奮闘で大盛況。ありがとうございました。

聖アンナ幼稚園



秋の芸術祭「親子ふれあいデー」

～リニューアルされた園舎にて～



今年の夏休みに聖アンナ幼稚園はリニューアルされ、全体が明るい色調になりました。この新しい雰囲気の園舎全体を美術館に見立てた「親子ふれあいデー」が、9月23日(秋分の日)に開催されました。子どもたちは、壁画の制作、床のブロックの彩色など多様な形で芸術を楽しみながら当日を迎えました。園内には、家族で取り組んだ「親子作品」や卒園生の作品が展示され、作品とそれに添えら

れたコメントは、どれも見応えのあるものばかりで多くの方が時間をかけてゆっくりと鑑賞していました。おじいちゃん、おばあちゃんも多数寄せられ、中庭の木を飾りました。また、O B会とP T Aの協力でミニ・コンサートの開催、カレーやコーヒー、やきそば…など、さらにお楽しみくじ引き…などがあり、楽しい秋の一日をご家族お揃いで過ごされていました。



第二しのものめ幼稚園

自分表現の場ポケットひろばから

幼稚園では、園内施設を保護者や地域の方々へ開放し子どもと保護者と教員が出会い触れあい語り合いたいと、子育て支援の場として「ぽけっとひろば」を開設しています。

いっぱいからだを動かしてまねっこ遊びをしながら、自分の心を開放して感じたままを身体表現していく「こどもリズムクリズムであそぼう」は大きな太鼓をたたいて音の大小を感じたり、布を使いながら三拍子を感じたり自分の体を使う楽しさを感じて欲しいと願っての活動



です。父の日には、赤や黄色の綺麗なお花を牛乳パックに自由にアレンジしておとうさんへ「大好きありがとう」の気持ちこもったプレゼントを作り家族への思いを感じる時間を過ごしました。夏休みには在園児から小学生まで大勢参加してすいか割りや、さかなつり、縁日のクジ引きと夏の遊びを充分楽しみながら子どもたちのお休み中の生活の様子や、卒園児からは小学校での楽しいお話も聞くことができた一日でした。幼児の世界は文字や言葉が少ない世界です。私たち



はポケット広場の時間を楽しみながら、いつでもだれにでも自分を表現することが大好きな子どもに育てて欲しいと取り組んでいます。保育室の環境づくりは、一歳から三歳頃の子どもたちには、遊びながら自然に手や指を動かす環境を大事に準備しています。色彩が豊かで個々の素材が吟味された、木のぬくもりを感じる北欧の手作り教具を保育室に増やししながら、よりあそびに集中し、楽しめるよう工夫しています。絵本作家で翻訳家の石津ひろ氏のお子さんが6歳の時に作った可愛い詩を紹介します。(一部抜粋)

あしたのあたしは あたらしい あたし
あたらしいあした あたらしい あたし

子どもたちは大人が考えるより自由な心を持っています。親ごさんがゆつたりとした心で幼児と向き合える時間をポケット広場を通して過ごしていただけたらうれしいと考えています。

びわの幼稚園

「自信と意欲」のびわの祭

9月25日(日)にびわの幼稚園では、良く晴れた秋空のもと毎年行われている「びわの祭」を実施しました。

この祭は7月15日(金)に開催したPTA役員会議から準備、話し合いが進められ、保護者全員の協力のもと子供たちに「自信と意欲」を与える幼稚園3大イベントの一つで、今年3月卒園した小学1年生のお友達も数多く遊びに来る園行事です。今回のテーマは、「サファリパーク」。作品の製作は毎日の保育時間を活用して進められ、本格的な準備は前日24日(土)の午後から行いました。

年長さんが挑戦した紙粘土で作った「バンダ」、年中さんが挑んだ紙工作の「恐竜」、年少さんの動くおもちゃ「カメとたこ」、そして3才児による「フクロウ・ワニ・ライオン」など、どの作品にも「頑張ったよ」という一人一人のメッセージがこめられた立派な作品でした。

また、お母さんの力作「わが子の似顔絵」も展示され、思わず真っ白な画用紙

に向かい、わが子を見つめるお母さんの優しいまなざしが想像されました。

模擬店は、焼きソバ・おにぎり・フランクフルトを担当したお父さんチーム、うどん・そばを担当した年長お母さんチーム、ジュース・ケーキ・アイスを担当した年中お母さんチーム、バザーを担当した年少3才児お母さんチームと、ガチャガチャくじを担当した職員チームの5つのコーナーで祭りを盛り上げました。

特に朝早くからテントを設営し、汗を流しながらお父さんたちが作ってくれた焼きそば、天玉入りのうどん、そば、氷入りプールで冷やされたラムネ、お母さ



ん手作りのキャンディネックレス・ゴセイジャーワッペン、先生方のシャボン玉・ガチャガチャくじなど園児たちは自分の財布を握り締め、楽しく買い物のに並んでおりました。

園舎では、園児のスナップ写真が数多く展示されており、作品見学が終了なお母さん方が熱心にわが子の一枚をさがしておりました。

くじで当たったクルクル回る空飛ぶヘリコプターを追いかける園児たちからは、「今日は、楽しかったね」と作品を作り上げた自信と、「また頑張るぞ」という意欲が感じられたびわの祭でした。

学校法人光星学院から2人のプロ野球選手が誕生

光星学院高等学校 3年 川上 竜平 外野手

2011年プロ野球ドラフト会議で川上竜平君がヤクルトスワローズからドラフト1位指名されました。本校から6人目のプロ野球選手が誕生しました。川上君は沖縄県那覇市の出身で甲子園出場そしてプロ野球選手になるという目標を達成するために本校に入学してきました。恵まれた身体をもっており1年生の春季大会からメンバー入りし秋季大会では主力選手として活躍しました。しかし、けっして順風満帆な野球人生ではありませんでした。甲子園出場も今一步のところまで阻まれ彼自身も技術的な壁に何度もぶち当たり、捕手でスタートしたポジションを一塁手、投手そして外野手と何度もコンバートされ打順も7番まで降格されたこともありましたが。しかし目標を見失わず努力を重ね、新チームではキャプテンとなり、野球の実力とともに精神面が非常に成長し3年春の選抜甲子園大会へ出場することが出来ました。また夏の甲子園にも8年ぶりに出場し青森県勢42年ぶりの準優勝という素晴らしい成績と川上君自身も3本塁打を放ち、その非凡な野球センスがプロからも認められてもらえることとなりました。川上君には今まで努力してきたことを忘れず更に精進してもらいたいと思います。そしてプロの厳しい世界でも光り輝いてもらいたいと思います。

ドラフトに指名された時に彼はインタビューで「皆様から愛される選手になりたい」と言いました。それは野球のグラウンドだけではなく普段の生活から培われるものだと思います。常に謙虚で真面目な人間で在り続けてもらいたいです。そして我々も川上君に負けたくない皆さんに愛されるような野球部になり、全国制覇を目指し頑張りたいと思います。

硬式野球部 監督 仲井 宗基



八戸大学 4年 田代 将太郎 外野手

2011年10月27日。「プロ野球新人選手選択会議（ドラフト指名会議）」の様子をじっと見つめる硬式野球部員。待つこと1時間半。その時、埼玉西武ライオンズ5位指名のアナウンスが聞こえた。少年時代からの夢が叶った瞬間だった。

彼の名は田代将太郎。4年前に海を越え北海道石狩市から八戸大学ビジネス学部に入學した。硬式野球部は、「文武両道」をモットーとして掲げているため、名選手を目指す為には野球だけではなく勉学に励み、ビジネス学部生としての知識修得も要求された。

これまでの公式戦通算打率は3割6分。その中でも印象に残っている一打は、2010年に出場した第59回全日本大学野球選手権大会準々決勝での延長14回サヨナラホームランだ。この大会中、共にチームメイトとして戦った塩見、秋山両選手は今年度からプロ野球選手としてすでに活躍している。特に同じ外野手である秋山選手は「走・攻・守」三拍子揃った目標とする先輩の一人だ。田代自身も「走・攻・守」三拍子揃った選手だと言われている。来シーズン秋山選手とは埼玉西武ライオンズのチームメイトとなるが、両選手どんな持ち味を見せるのか注目されている。

「夢の続きを」というメッセージが書かれた色紙が田代の元に届けられた。他でもない埼玉西武ライオンズ渡辺久信監督からのものだ。プロ野球選手になるという夢を叶えた今、次の目標は多くの人に夢と希望を与えられる名選手になっていくことだろう。身長178センチ、体重76キロという標準的体型の彼が一回りも二回りも大きくなり、観客を沸かせる日が今から待ち遠しい。

